

With

利用者と共に

職員と共に

地域と共に

vol.45



2021.6/1

TAKAMORI

発行所 障害者支援施設 高森荘

〒399-3101 長野県下伊那郡高森町山吹4473-1

TEL.0265-35-6811 FAX.0265-35-6812

E-mail: i0720@amber.plala.or.jp

発行者 高森荘施設長 入野友宏

高森荘からの情報発信 ウィズ



ある日の高森荘

朝歌

火曜日と木曜日の朝、「朝歌」と題して全員で歌を歌っています。コンセプトは「ちょっと難しい歌に挑戦してみよう」です。誰もが知っている昔の歌も良いけれど、流行りのJポップをカッコ良く歌ってみたいという意見から始まりました。元気で前向きな曲を選び、BGMに合わせてみんなで合唱。「難しい!!」「ついていけない!!」と口々に言われていた利用者さんも、回数を重ねること見事に上達していきます。みんなの歌声が一つになる瞬間は気持ちが良いものです。

1、昼間実施サービスの転換

・旧授産施設の機能を生かした「生産活動」重視の昼間実施サービスからの転換を図る。広い作業室は「生活介護」サービスの差別化に繋がりにメリツトのある反面、高齢化や原疾患の進行等で作業遂行の低下が課題となっていた。検討の結果、作業室を分割して、一方は生産活動の場、一方はリハビリや余暇活動等の場とした。ついでには、在庫整理等の環境整備、視聴覚機器やスクリーン、TVアンテナ等の設置を行う。サービス提供の場を一元化することは、無駄の排除や効率化、見える化によるリスクマネジメントに繋がると期待した。

3、新たなサービス提供として

・新型コロナウイルスにより、入所及び短期入所利用の方は外出・泊の禁止、面会も基本的に禁止、計画した行事で対外的な事業はすべて中止とした。結局一年、施設という箱の中の暮らしを余儀なくされた。その閉塞感を打破するため「自トレ」「朝歌」「青空朝礼」は今年度誕生した企画で、その目的は、自主性に委ね強制しないが一日一回は老若男女全員が集い継続すること。ストレッチや同じ曲を歌うこ

2、コロナ禍による影響

・取り組みはコロナ禍により思わぬ事態に進展する。ゾーニングにより作業室は通所利用専用となり、生産活動は通所者限定となった。リハビリ、余暇活動の場は食堂とな

とに派手さはないが、朝の新鮮な空気の中で参加者の減少はない。その他、リハビリの推進、外部に頼らない行事企画、ICTを活用したゲーム大会や動画配信サービス、買い物もインターネッツを活用。また、外食が叶わぬなかで、季節感を取り入れた食事提供で彩りを添えることに腐心した。コロナ対策に明け暮れた一年となったが、委員会を中心に予防対策や研修に努め事業を運営することができた。しかし、先行きが全く不透明であり、感染対策と並行し無為な暮らし改善には更なる創意と工夫、福祉事業者としての真価が問われている。



令和2年度 苦情解決の結果

①サービスの質・量に関するもの	1件
合計	1件

フレッシュ☆アイ

職員の声

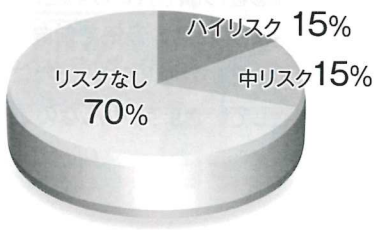
高森荘で働き始めて、2か月が経ちました。働き始めたころは自信がなく、利用者さんとのコミュニケーションをうまく図れないことが多かったです。しかし利用者さんから話しかけてもらえたり、分からないことを教えてもらえたりするうちに、少しずつ自信を持てるようになりました。

高森荘にきて感じたことは、自立支援をととても大切にしているところです。利用者さんが持っている力を最大限に発揮できるように支援していて、私もそのような支援を出来るようになることを目標にこれからも頑張りたいです。

褥瘡防止委員会

高森荘には褥瘡防止委員会というものがありません。褥瘡を防止し、褥瘡になった場合の適切なケアをすることを目的に活動しています。いわゆる床ずれと言われているものです。入所されている方の多くは麻痺などの後遺症を持っておられる方が多いので褥瘡にならないように注意しています。具体的には利用者さんそれぞれの状態をチェックシートで確認し、どれくらい褥瘡になりやすいかを評価していきます。その上でそれぞれにあった栄養をとって頂くようにしています。褥瘡にならずに元気に生活して頂く為に頑張っています。

高森荘褥瘡評価



忘年会



みんなで感染症対策を行いながら忘年会を楽しみました

12月23日、高森荘忘年会が行われました。今年の忘年会は、コロナの影響で入所と通所の利用者さんのスペースを分けたり、例年オードブルのところをお弁当に変更したり、全員マスク着用で感染症対策を行いました。例年の会となりました。例年より短い時間ではありましたが、今年は行事が少なく皆さんにとって久しぶりの行事となり、いつもと違った食事や出し物をそれぞれ楽しめた様子でした。



お花見週間

高森荘にも春がやってきました。食堂は花見様に飾られ、コロナ禍であることを忘れるほど華やかです。2週間にわたってのドライブレクでは桜の時期を過ぎ、花桃を見に行かれたグループもあつたようです。4月8日には昼食がお花見食となり、職員によるコンサートも行われました。松田聖子の「赤いスイートピー」懐かしかったですね。



年末の出来事

年末のある日、地域の方が手作りのおやすや南天を届けてくださいました。早速施設内に飾らせていただき、よい新年を迎えることができました。コロナ禍で地域の方々の交流も今までのようにはできない中、変わらずお気遣いいただき大変感謝しております。



感染症対策

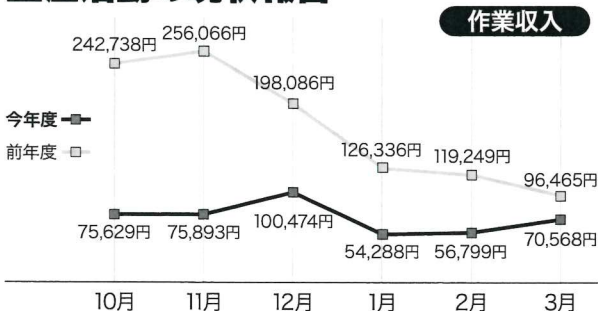
ウイルス除去に効果があると言われていて、低濃度オゾン発生装置を導入しました。施設内や通所送迎の車内で使用しています。



生産活動

コロナによる影響は引き続きあり、受注にも波がある中ダンボール資材は比較的コンスタントにありました。通所の方が主となり、場所を分けて入所の方にも一部作業をして頂きながら取り組みました。作業の少ない週は希望の映画を鑑賞する時間を設ける等して日中活動の新しい過ごし方も定着してきました。今後も皆さんとコミュニケーションをとりながら環境に対応していききたいと思います。

生産活動の現状報告 (下半期)～前年度との比較～



2020年12月~2021年5月行事

紙面の写真・氏名については、利用者、ご家族、職員の同意を得て掲載しております。



12/23 忘年会

12/28 門松作り

2/3 節分豆まき

2/10 水害移送訓練

3/10 春季火災避難訓練

4/1 開園記念日

4/1~16 ぐるっとお花見
お花見コンサート

5/19 水害移送訓練



節分



忘年会



春季火災避難訓練



忘年会



水害移送訓練



新年度がスタートし早2
か月が過ぎました。
思い返すと、昨年度は新
型コロナウイルスへの対策
に追われ、高森荘での生活
も様変わりした年でした。
利用者様の特性上、感染予
防のためには外出や面会も
制限せざるを得ませんでした。
今年度は Zoom を
活用したオンライン面会も
徐々に進めていきます。ご
家族を近く感じていただ
き、日々の生活の活力にな
ればと考えています。

編集後記

● 11月26日～12月4日
飯田女子短期大学介護実習
1名